

けがであきらめさせたくない



親に連れられてきた診察室で痛みを打ち明けられない子がいる。「レギュラーの座を失うのが怖い」。我慢して体を酷使する理由はプロ選手と同じだ。

しかし、背骨や筋肉を診ただけで痛み部位は分かる。「このまま続ければ体が壊れてしまうよ。でもね、今から動きを修正すればプロに近付けるんだ」。治療への前向きな気持ち



ちを子供から感じるまで、じっくりと話しかける。2004年、全国的にも珍しい小中高生限定の「こどもスポーツ専門外来」を病院内に開設。看護師や理学療法士を加えた医

療チームが、患部のレントゲン検査だけでなく、野球の投球やサッカーのシュートなどのビデオ解析も行い、どの動きが痛みの原因なのかまで調べる。「伸び盛りの子供だからこそ

スポーツドクター
佐田 正二郎さん
42
(福岡市中央区)

福岡市中央区出身。福岡大医学部卒業。2001年、父の後を継ぎ城南区の「佐田整形外科病院」院長に。北京五輪では日本代表選手団ドクター。1998年から7年連続で冬季国体スキー競技に出場した。

徹底的に治す。けがでスポーツをあきらめさせたくない」自身はスポーツと縁遠かった。私立の進学校に通い、部活動とは無縁の日々。初めて本格的に打ち込んだのは大学入学後のスキー競技だった。

記録はある程度まで上がった。だが、大人になってからでは改善できないことにも気が付いた。背を伸ばし、関節の可動域を広げられるのは、骨が発育する小中学生だけ。知らずに過ごしてしまった自分の子供時代が今でも悔やまれる。

「子供の体は大きな可能性を秘めている。きちんと運動し、ストレッチを続ければ必ず成長し、身体能力が引き出される」自分が出来なかったからこそ今、スポーツで夢を見る子供を手助けしたいと願う。

文・高橋雄介
写真・江口聡子